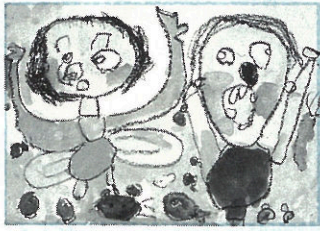
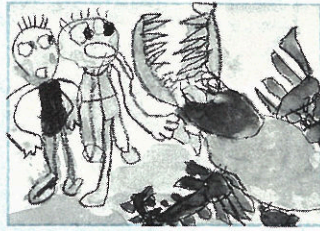




植山 奈美



宗重めぐみ



宮崎 宏志



ふるさとへ

18

牧田 智子さん
(東京都在住)



私の大切なふるさと

私は、日置八幡宮におつかえさせていたゞく宮司の家に生まれました。

そして、日本が戦争時代を経て、経済的にも、心の持ち方にも、大きく変わって行く社会の中を、約二十年間日置町で、豊かな自然の恵みと、家族はもとより、多くの方々に世話になり過ごさせていただきました。

その後結婚し、会社員であった夫の転勤で、北海道の釧路、横浜、東京と住いを移転し、ふるさとを出て四十年余りとなります。

本当に月日のたつのは早いものです。

釧路では、冬は気温が零下になる日が多く、真冬には、根雪が大地をおおい、道路も凍って、ゴム長靴で歩くのも

滑ってしまいそうで大変でした。気温もひと冬に何回か零下二十度位まで下ります。

おそい春が五月末から六月にかけて訪れ、スズランをはじめ珍しい花が原野に咲き、ほっとするのもつかの間、夏らしい夏もないま、秋が来て九月には冬支度がはじまりました。釧路には約五年間いました。

その時つくづく感じたことは、私の生れたふるさと日置町がどんなにか恵まれているということでした。

四季ごとに美しく変化する山や野の景色……。

特に千畳敷に登り、宝さがしをした小学校の遠足の時、山の上から眺めた日置町の景色は、おもしろかったわかめむすびの味と共に、今もなつか

日置俳壇

〈兼題 西瓜〉

合宿の子へ差入れの大西瓜
白石 敏江

上段に構え娘の西瓜割り
高尾 凡果

車窓より西瓜手渡す老夫婦
秋枝タキ子

熟れ具合外には出さぬ西瓜か
塩瀬 米江

荷台からころげ落ちそな大
池永 君江

朝市の筵あふる、大西瓜
河内みさほ

包丁をあてればはずむ縞
西村亥子代

西瓜
西村亥子代

西瓜切るあの子この子も呼び
宮本やすの

〈雑詠〉

百選の水澄む森の蟬しぐれ
松岡ヨシ子

吹く風に雲の流れや今朝の秋
秋枝タキ子

存問の今朝の秋めく一語かな
河内みさほ

盆僧を佛のごとく迎えけり
古谷 桃月

三人の遺影やさしく盆の菊
吉村一泉女

新涼の風がよく来る一軒家
白石 敏江

敗戦忌若さを語るクラス会
木村 一路

白百合の佳き香嗅ぎえぬ齢と
国司ハル子

しております。

筆者紹介

昭和8年生まれ。亀山出身。旧姓 高山。大津高を経て、文化服装学院を卒業。その後結婚され、長男、長女を儲ける。昭和45年から58年まで、丸紅冷蔵(株)に勤務。現在長男夫婦と同居の3人暮らし。近うち、お孫さんが出産予定ということです。